

市町村名	座間味村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	座間味村海域安全隊事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	産業振興課		事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
						-1-(1)	
事業内容	村指定の3ビーチにおいて、観光トップシーズンから修学旅行受入期間中、海洋事故防止及び安全確保並びに周辺自然環境の保全活動を図るため、ライフセーバー員を配置する(4月～10月)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	10,000	10,000	15,668		
		(b)予算現額	10,000	10,000	7,500		
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲ 8,168		
		(d)繰越額	-	-	-		
		A. 計(b+d)	10,000	10,000	7,500		
	B. 執行済額		10,000	10,000	7,030		
	うち交付金充当額		8,000	8,000	5,624		
	次年度繰越額		-	-	-		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	93.7%		
予算の状況の説明		当初予算からの▲8,168千円は、委託事業者が見つからず、事業執行予定配置期間が短くなったため補正にて減額した。 不用額470千円は、予定配置日数の減によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	ライフセーバーの配置及び増員 ビーチの安全管理、自然保護管理	目 標	(4～5月週末配置 6～10月常駐配置)	(5月～10月常駐配置)	(実施)	()	
		実 績	8～10月 (常駐配置)	4月26日～11月 常駐配置	一部実施		
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	当初は4月末日から10月末日までの常駐配置を予定していたが、委託業者が見つからず平成26年5月2日～6日までの連休中および8月から常駐配置となった。 また、上記理由により目標の増員は行えなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	村内3ビーチへのライフセーバー配置 4月から10月	目 標	()	(3ビーチライフセーバー配置)	(3ビーチライフセーバー配置)	(3ビーチライフセーバー配置)	()
		実 績		配置	配置	5/2～5/6 8/1～10/31 配置	
	ビーチでの遊泳無事故	目 標	()	()	()	(ゼロ)	()
		実 績				死亡事故1件	
	進捗状況説明	村内3ビーチ(古座間味ビーチ、阿真ビーチ、北浜ビーチ)において平成27年5月2日～6日及び8月1日～10月31日の間ライフセーバー等を配置した。しかし配置できなかった期間に死亡事故が1件起きた。 8月以降常駐配置してから水難事故が1件あったもののライフセーバー員の救助により意識が回復し死亡事故を防ぐことができた。 配置できなかった期間については委託業者が見つからず死亡事故も起きていることから対応策の検討が必要である。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	観光トップシーズンから村内ビーチへ事故防止と安全確保のため昨年度に引き続きライフセーバー員を配置した。 4月末から10月の常駐配置及び国立公園に指定され観光客の増加が予想されることから、ライフセーバー員の増員を予定していたが委託を予定していた沖縄ライフセービング協会の事情により契約ができず、予定の配置期間及び増員はできなかった。 また、ライフセーバー員を配置できなかった期間において水難死亡事故が発生し、安全が確保できなかったことや、国立公園に指定され観光客も増加し、サンゴの破壊等が見受けられたが、配置期間中は入水前に安全確認やサンゴへの配慮等きめ細かな対応をおこなった。 今後も引き続き安全安心な海水浴をPRをしていく必要がある。	ライフセーバー員の人材が全国的にも不足している現状のため、村内での人材育成が必要である。 観光客が増加し、安全確保(海難事故ゼロ)のためには、ライフセーバー員の質の向上および、人材確保・育成が必要である。 配置期間中は入水前に安全確認やサンゴ等への環境への配慮等きめ細かな対応を行っていく必要がある。
今後の取り組み方針		
H27年度は水難事故ゼロを目標に、関係機関(沖縄ライフセービング協会等)と連携し人材の確保を及び水難救助講習会などを開催し村内人材の育成に努め安全安心な海水浴場にするため安全体制の構築を図る。 また、サンゴの保護のため観光客へ村営船舶での張り紙等で事前に周知し引き続き入水前の環境への配慮の指導も行うことで、保全しているサンゴの保護にもつなげることとする。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
座間味村 7,030千円 委託費 7,030千円 NPO法人沖縄ウォーターパトロールシステム (5/2～5/6) 596千円 マギーシークラブ 1,125千円 シーカヤックryo 1,050千円 個人(4名)4,259千円 業務内容(3ビーチ) ・監視、パトロール ・事故防止のための安全指導、環境保全指導 ・遊泳禁止条件、禁止区域での警告、指導 ・事故発生時の救助活動 ・痛病者に対する応急処置 ・美化活動				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		7,030	7,030	5,624
				市町村負担金
				1,406
				交付対象外経費
				0
資金の流 使途の流 点、検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 委託事業者は資格等で選定しており、また水難救助という特殊性から随意契約で妥当であったと考えている。 ○ 予算規模は人数及び業務内容から鑑み適正な規模であった。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○ 費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。	

市町村名	座間味村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	座間味村がんばる観光支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	産業振興課		事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
						-1-(1)	
事業内容	観光客誘致とリピーター確保のため、既存イベントの強化拡充や、新規イベント開催及び観光大使による県外周知活動、県外アミューズメント施設での誘致活動などを実施し、県内外へ広くPRする情報発信をおこない誘客促進を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	14,227	15,000	29,674		
		(b)予算現額	14,227	8,119	29,674		
		(c)増減額(b-a)	0	▲ 6,881	0		
		(d)繰越額	-	-	-		
		A.計(b+d)	14,227	8,119	29,674		
	B.執行済額		14,227	8,119	28,397		
	うち交付金充当額		11,381	6,495	22,718		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	95.7%		
予算の状況の説明		各種イベント(補助事業)への補助確定額が当初予算より低かったため不用額が生じている。また、県内外PR事業については、昨年に引き続き東京都及び新規兵庫県にて開催した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・ホエールウォッチングフェスタ実施(12000人)	目 標	(イベントの開催補助)	(観光協会へ補助)	(12000人)	()	
		実 績	開催	補助	14873人		
	・ヨットレース実施(350人)	目 標	(イベントの開催補助)	(観光協会へ補助)	(350人)		
		実 績	開催	補助	365人		
	・座間味島祭り実施(500人)	目 標	(イベントの開催補助)	(観光協会へ補助)	(500人)		
		実 績	開催	補助	511人		
	・サバニレース実施(700人)	目 標	(イベントの開催補助)	(観光協会へ補助)	(700人)		
		実 績	開催	補助	702人		
	阿嘉慶留間祭り実施(300人)	目 標	-	観光協会へ補助	300人		
		実 績	-	台風により中止	台風により中止		
	・電車・路線バスへの広告(4件)	目 標			4件		
		実 績			4件		
	・メディア村取材放送(2番組20回)	目 標			2番組20回		
		実 績			3番組6回		
	・クオリティーの高いIPRPVの作成配布(作成映像3分5分10分3パターン)	目 標			(PV作成配布(3分5分10分))		
実 績				PV作成の実施(1分・3分・10分)			
県外水族館・空港でのPR活動実施(4回)	目 標	(パネル展の開催)	(パネル展の開催)	(4回)	()		
	実 績	東京都しながわ水族館にて開催	東京都しながわ水族館にて開催	東京都(しながわ水族館)兵庫県(須磨海浜水族園)にて開催			
達成状況説明	イベントを充実・拡充し開催したことにより、観光客及び参加者等の増加がみられ、数値も達成した。また、県外PR活動として、東京都のしながわ水族館及び兵庫県須磨海浜水族園でのパネル展を実施。開催数が少ない理由は回数を少なくする分パネル展示期間を長くしたことによる活動実施回数の減である。誘客広告はTV番組は予定とは異なるが、集中的に3番組を同時期に放送することで、集中的に3番組を同時期に放送することで旬な情報を旬な時期に集中的に広報でき、TVメディアだけではなく、映画館で映画上映前にCMを流すなど他の媒体も活用した広報活動を実施した。雑誌、路線バス、でも効果的なPRができた。PVもクオリティーの高い映像がかつ、多言語化に対応したつくりとなり、予定とは異なるが1分、3分、10分の3パターンを作成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(24年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	座間味村観光客入域数	目 標	(70000人)	(85000人)			()
		実 績		90000人			
	進捗状況説明	平成26年度より 成果目標の見直しを行い、観光客入域数を目標としている。入域客数は目標を達成した。たが、閑散期(冬場)のイベント等に力をいれ、オンシーズンとオフシーズンの均等化を図っていく必要がある。また、作成したPVを活用しながら、県内外のイベントやメディアなどに広くPRし映像を使うことで観光誘客に繋げる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	誘客のために既存イベントの拡充、誘客広告広報、PV作成、県外PR活動の実施を行った。 各種イベントについては、インバウンド対策を行い外国人も容易に参加できる仕組みを構築する必要がある。 県外PR活動については、ターゲットを絞っているため、地方都市での開催も視野に入れる必要がある。 誘客広告広報については、県内向けの誘客事業として実施したが、入域客数がH27年2月から前年を上回っていることから、短期間で広告広報を行うことで、旬な情報を旬な時期に集中的に広報できた。 PV作成については、自然環境等の風景の部分は多いが、村自体に目立つ商材がない為、物産の部分の紹介がない。	各種イベントに関しては、誘客のための広報宣伝方法を紙媒体だけではなく、SNSなどでの紹介を強化することで、観光客の増加につなげる。 県外PR活動については、地方都市での開催も含め検討していく、関西圏、関東圏だけではなく、九州、北海道での開催も視野に入れ、広く座間味村を知ってもらう。 誘客広報については、単年度事業の為、次年度は無いが、広報内容はアクティビティだけではなく、飲食物などの特産品を紹介する必要がある。商品量、種類は少ないが、既存の特産品をHPなどで紹介する。 PV作成についても単年度事業だが、作成したPVを使用しイベント等で閲覧できるようにし、観光客に広く座間味村を知ってもらう。
今後の取り組み方針		
イベントについては、引き続き各種広告物の多言語化によるインバウンド強化および広報宣伝方法を紙媒体だけではなく、SNSなどでの紹介を強化し観光客の増加に向けて継続していく。県外PR活動については、関東、関西圏の水族館を中心に取り組んできたが、動物園等を含めた水族館以外の娯楽施設でパネル展等のイベント開催を検討し、幅広い層をターゲットにPR活動を行い、誘客に繋げる。開催地も北海道や九州地方も視野に入れ検討する。 特産品については商品量、種類は少ないが、既存の特産品をHPなどで紹介する。 PV作成については、作成された映像をSNS、イベント等で活用し、誘客につなげる。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		28,397	28,397	22,718
				市町村負担金
				5,679
				交付対象外経費
				0
座間味村 28,397千円 補助金 7,110千円 委託料 21,287千円 一般社団法人 座間味村観光協会 7,110千円 株式会社ハイパーシステム 5,049千円 須磨海浜水族園 3,823千円 (株)ブレインワークス 3,991千円 (株)宣伝 8,424千円 座間味島まつりまつり 座間味島ファン感謝月間 2015ホエールウォッチングフェスタ 第15回サバニ帆漕レース 第37回座間味ヨットレース I LOVE ざまみ(歌フェス)新規イベント しながわ水族館 H26年12月6日～平成27年3月10日 須磨海浜水族園 H26年10月12日～平成27年2月15日 平成27年1月19日～平成27年3月31日 座間味村観光誘致プロモーションビデオ作成 平成27年1月19日～平成27年3月31日 ・県内放送TV番組誘致 県内民放3社 ・バスラッピング 沖縄バス3台 那覇バス3台 ・映画館上映前CM「シネアド」 ・ポスター作成 県内郵便局 コンビニ ・モノレール中吊り ・ラジオ FM沖縄 ゴールデンアワー ・3DVR 立体体験装置 ・フリーマガジンへの特集記事の掲載				
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○平成25年度において、村民間団体と協議した結果、本事業を行なえる団体が、座間味村観光協会であった。本事業計画実施の実現性から、観光協会への補助金は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○県外PR委託事業は本村観光大使が所属する県外事業者と随意契約をし、企画運営において、座間味村、及び県外の事に精通している観光大使がかかわることで、本村に見合ったPRになり適切であった。誘客広告広報及びPV作成においてはプロポーザル方式により募集し妥当である。
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。		○予算規模は作業規模に見合った範囲内で設定しており妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費目、使途については清算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	座間味村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	座間味村観光受入拠点事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	産業振興課	事業実施 (予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	観光リゾート産業の振興		
事業内容	365日対応の観光案内業務とタイムリーな観光情報発信及びダイビングや民宿事業者への取次案内をスムーズに行い、外国人を含めた観光誘客に向け、企画立案と事業展開を実施する観光協会へ補助を行い、観光客の誘致と満足度向上を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	20,000	19,320	19,755		
		(b)予算現額	10,000	13,770	19,755		
		(c)増減額(b-a)	▲ 10,000	▲ 5,550	0		
		(d)繰越額	-	-	-		
		A.計(b+d)	10,000	13,770	19,755		
	B.執行済額		10,000	13,770	19,000		
	うち交付金充当額		8,000	11,016	15,200		
	次年度繰越額		-	-	-		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	96.2%		
予算の状況の説明		不用額が755千円発生しているが、当初計画していた事業内容は実施、達成状況をかんがみて適正であったと考えている。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	村の案内所業務、閑散期(冬場)の観光客誘致のため、メニューの開発及び村内事業者の質の向上を目的に各種講習会等の実施	目 標	(実施)	()	()	()	
		実 績	実施				
達成状況説明	案内業務については年中無休で実施し、閑散期のメニュー開発については、昨年開発したノルディックウォーキングインストラクターの10名養成及び他アクティビティーとのタイアップツアーの受入、新メニューとして、村内周遊スタンプラリーの開発を行った。また、村内事業者の質の向上に向け英語対応講座(インバウンド)を25回実施した。食の向上は村内民宿事業関係者を集めた意見交換会を開催し現状課題を話し合い質の向上について取組事例等を紹介した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (年度)
	観光メニュー開発3本	目 標	()	(3メニュー 開発)	()	()	()
		実 績		1本			
	観光客満足度: アンケートの実施	目 標	()	(アンケート 調査)	()	()	()
		実 績		実施 2,676名			
	宿の食の資質の向上(講習会)	目 標	()	(実施)	()	()	()
		実 績		未実施			
	インバウンド講習会の実施	目 標	()	(講習会)	()	()	()
		実 績		村内にて25回実施			
	進捗状況説明	年中無休の観光案内業務を実施した。観光メニュー開発として3本予定していたが企画がまとまらず1本しか開発できなかった。あらたなメニューとして本村の3離島を周遊するスタンプラリーの開発を行った。ノルディックインストラクター養成及び、受入、インバウンド受入講座(英会話教室)を25回実施しその他、野鳥講習会の実施、旅行者とタイアップしたビーチクリーンツアーの開催。食の資質向上は講習会の実施には至らなかったが、意見交換会を2回開催し次年度以降につなげて行く。満足度調査のためアンケートを実施し2,676名から回答を得た。アンケート内容として旅行の目的や、国籍、旅行形態及び滞在日数等をや満足度を知ることができ結果をもとに更に満足度向上に向け取り組む必要がある。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	観光客の満足度、利便性向上のため、案内窓口を開設し丁寧な案内業務を行った。また、閑散期における観光客誘致及び村内事業者の質の向上のため各種講習会等を開催した。 国立公園に指定され、観光客が増加する中、今までの欧米系観光客を含め、アジア系の旅行者も増加しており、インバウンド受入れ体制(窓口案内業務及び村商工業事業者)の更なる強化が課題となっている。 冬場(閑散期)に関してもホエールウォッチング客が増加し関係団体との連携強化が必要となっている。またノルディックウォーキング以外の、メニュー開発を早急に行う必要がある。	外国人対応英会話教室を実施したが、増加するアジア系観光客も視野に入れ中国語や韓国語等の語学教室の開催を検討し案内業務を含めた村全体の受け入れ体制の強化及びパンフレット、チラシ等での周知充実を図る。 また、閑散期(冬場)のメニュー開発を地元観光業者、関係機関と連携し開発していく必要がある。
今後の取り組み方針		
年中無休で丁寧な観光案内業務を継続すると同時に接客の向上に取り組み、インバウンド受入体制の強化のため積極的にアジア系講座を実施することで、事業者の意識と質を高める。また、閑散期(冬場)の観光客誘致のため新規メニューを開発するにあたって、同協会だけではなく地元観光事業者及び関係機関と積極的に意見交換を行い、アンケートによる意見も取り入れ開発する必要がある。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>21,715</td><td>19,000</td><td>15,200</td><td>3,800</td><td>2,715</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	21,715	19,000	15,200	3,800	2,715
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
21,715	19,000	15,200	3,800	2,715										
座間味村 19,000千円 補助金 19,000千円 一般社団法人 座間味村 観光協会 19,000千円 協会負担分(交付対象外経費) 2,715千円 ・窓口案内業務(年中無休)(案内、電話対応、メール対応) ・情報発信(HP等、マスコミ、メディア対応) ・県内外PRイベント参加 ・各種講習会														
資金の流 使途の流 点検・費 目・費 目・費	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業目的を達成するに当たり、村内においては当法人しかなく妥当である。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○受益者である観光協会は総事業費の1割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	座間味村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 -	座間味村歴史文化・健康づくり拠点整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	総務・福祉課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
						-1-(1)	
事業内容	観光客の受け入れ態勢の整備と満足度向上を図るため既存公園園内へ拡張整備を行う。本年度は東屋、ベンチの取付け、人工芝、グラウンド整備を行い、ビジターセンター建築に向けた詳細設計及び地質調査を行う。						
実施方法	■ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	17,274	80,000	85,820		
		(b) 予算現額	17,274	80,000	98,780		
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	12,960		
		(d) 繰越額	-	-	-		
		A. 計 (b+d)	17,274	80,000	98,780		
	B. 執行済額		17,273	79,565	96,628		
	うち交付金充当額		13,818	63,652	77,302		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	99.5%	97.8%		
予算の状況の説明		・不用額が2,152千円発生しているが、委託費の入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施したほか、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。また、予算増額については用地購買の見直しや軟弱地盤のため地質調査の追加が生じた事を受け12,960千円計画変更により増額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	踏まえたことから		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	公園整備の機能強化の実施	目 標	(機能強化の実施)	()	()	()	
		実 績	機能強化の実施				
	ビジターセンター実施設計の作成及び測量調査	目 標	(実施設計測量調査)	()	()	()	
		実 績	実施設計測量調査				
達成状況説明	・公園整備の機能強化のため緑地公園内へ新たな設備機能を追加及びグラウンド部の改修を図るため入札による請負工事を発注し完了した。 ・ビジターセンター実施設計の作成及び測量調査について予定地である緑地公園内の測量調査や地質調査並びに実施設計書作成のためプロポーザル方式により委託業務を発注し完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	公園整備(東屋・ベンチ・3on3コート・健康器具等の設置)	目 標	(コート2面 建屋一棟 整備一式 等未実施)	(2コート整備)	(整備一式 東屋・バスケットコート・健康器具等)	(整備一式 東屋・ベンチ・3on3コート・健康器具等)	()
		実 績		2コート整備	整備一式(東屋・バスケットコート・健康器具等)	整備一式 東屋・ベンチ 人工芝等	
	・ビジターセンター実施設計書を取りまとめ建築費用の把握。(PC又はRC造り地上3階建見込み)	目 標	()	()	()	(実施)	()
		実 績				実施設計書の作成	
	・予定用地の土地状況を把握すること	目 標	()	()	()	(実施)	()
		実 績				地質調査の実施(ボーリング調査)	
	進捗状況説明	魅力ある地域観光地の拠点として既存公園機能強化を図るためベンチ(2基)・東屋(1基)・人工芝(748㎡)、クレイ舗装(2099㎡)、ウレタン舗装(270㎡)によるグラウンド整備等を完了した。また、ビジターセンター建設に向けた実施設計作成のため、予定用地の土地状況を把握のため地質調査を行い土地状況を把握するとともに実施設計書を取りまとめ建築費用を把握し本年度の事業は完了した。また、当初予定していた3on3コート及び健康器具については早期の実施が望ましいと判断し平成25年度事業にて実施したことから本年度は取り下げとした。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・観光客の受け入れ体制の整備と満足度向上を図るため既存公園内の拡張整備を行い、多目的施設であるビジターセンター建築にむけ実施設計の委託に取り組んだ。 ・平成26年3月5日に本村は国立公園に指定されたことにより国立公園に係る制限や規制等へ十分留意が必要である。 ・観光客への利用促進について周知及び広報活動が必要である。 ・一部完成施設にて外国人利用者も増えていることから安全管理を含め利用ルールやマナー等の向上を訴える必要がある	・公園内の拡張整備において利用者の満足度維持のため保守(メンテナンス)が重要となることから今後の適正な施設管理に努める。また、将来完成のビジターセンターの運営に向けて展示物、イベント、プロアスリート受入れに等に係る分野において専門家の意見や先進事例を参考にし取組を実施する必要がある。 ・公園の拡張整備やビジターセンター建築に向けて国立公園指定に係る制限や規制について法的手続きが生じた場合は速やかに対応する必要がある。 ・観光客の利用促進についてはホームページを活用した周知を図り、観光協会窓口にて陸域観光ポイントとして案内を行う。 ・外国人向け利用者に対し多言語サイン・看板、保安灯の追加整備に向け調整を図る。
今後の取り組み方針		
基本となる構想計画において住民への説明や関係機関との調整を行いながら改善案等が発生したら速やかに対処し、より本村にあった公園機能強化整備を実施していく。また、一部完成施設において利用者より、更に魅力ある公園整備についての声や要望もあり、特に国立公園の指定を受けた以降、公園内の景観形成について多くの意見が寄せられていることから対応するよう取り組むこととする。また、観光客への利用促進については村広報媒体の他にも、パンフレットへの記載を行い観光協会窓口での案内を取入れるよう取り組む。更に外国人利用者対応のため多言語サイン・パンフレットを主要箇所へ設置対応する。 ビジターセンター建築については平成27年度及び28年度にかけての建築となるが、その間運営に関して観光客の誘致活動の展開と周知活動を図り、併せて施設条例制定に向けた準備に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		96,628	96,628	77,302
				市町村負担金
				19,326
				交付対象外経費
				0
座間味村 96,628千円 委託料 17,748千円 (株)芝岩エンジニアリング 864千円 (株)宮平設計 16,884千円 工事請負費 78,880千円 (有)ザマミ建設 78,880千円 公園機能強化に係る施工管理 ビジターセンター建設に係る詳細設計・地質調査 公園機能強化に係る請負工事				
資金の流 れ、使 途、 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札1件及びプロポーザル1件にて発注しており、工事請負業者は指名競争入札を行っており選定は妥当であったと考えている。 ○不用額は委託料の3%以内であり適正な規模であった。 ○費目・使途については清算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	座間味村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	座間味村美ら島づくり花の森整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 1 - (6) - イ	
担当部課名	産業振興課		事業実施(予定)年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	花と緑あふれる県土の形成 第 章 10 - 1	
事業内容	観光誘致と受入態勢の整備のため特定公園である本村の自然を生かした魅力ある景観形成促進のため、フラワーパークの構築や、玄関口でのウェルカムフラワーを設置し、年間をとおして花と緑で観光客を迎え入れる。						
実施方法	■ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,602	20,541	24,000		
		(b) 予算現額	10,602	20,541	24,000		
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0		
		(d) 繰越額	-	-	-		
		A. 計 (b+d)	10,602	20,541	24,000		
	B. 執行済額		10,500	20,290	23,981		
	うち交付金充当額		8,400	16,232	19,184		
	次年度繰越額		-	-	-		
	執行率(%) (B/A)		99.0%	98.8%	99.9%		
予算の状況の説明		18千円の不用額が発生しているが、設計委託による入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	阿嘉・慶留間島の実施計画の策定 座間味区及び阿佐区の植栽工事着手	目 標	(実施計画策定 植栽工事着手)	()	()	()	
		実 績	実施計画策定 植栽工事完了				
進捗状況説明	阿嘉島・慶留間区2地区の住民意見交換会を行い、地域の意見取り入れた実施計画の策定を行った。 座間味島2地区(阿佐地区・阿真地区)当該地区の植栽工事を計画通り行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	座間味区の港周辺の植栽工事着手 (コンテナ(ブーゲンビリア20個、ブッソウゲ18個、クロトン17個)設置)	目 標	()	(基本計画策定 業務委託)	(設計図策定)	(20個 18個 17個)	()
		実 績		基本計画策定 業務委託	設計図策定	20個 18個 17個	
	座間味区の高月山の植栽工事着工 (土壌改良49㎡、シャリンバイ植栽100本)	目 標	()	()	(設計図策定)	(49㎡ 100本)	()
		実 績			設計図策定	49㎡ 100本	
	阿佐区の避難道及び集落周辺の植栽工事着工 (コンテナ(ブーゲンビリア3個、ブッソウゲ3個、クロトン1個)設置、土壌改良165㎡、その他植栽1224本)	目 標	()	()	(設計図策定)	(3個 3個 1個 165㎡ 1224本)	()
		実 績			設計図策定	3個 3個 1個 165㎡ 1068本	
	阿嘉・慶留間島の実施計画の策定	目 標	()	()	()	(実施計画の策定)	()
		実 績				実施計画の策定	
	進捗状況説明	意見交換会の実施(3回):阿嘉地区が2回・慶留間地区は1回行い、阿嘉・慶留間島の実施計画の策定をおこなった。 座間味区の港周辺の植栽工事:コンテナ(ブーゲンビリア20個、ブッソウゲ18個、クロトン17個)設置 座間味区の高月山の植栽工事:土壌改良49㎡、シャリンバイ植栽100本 阿佐区の避難道及び集落周辺の植栽工事:コンテナ(ブーゲンビリア3個、ブッソウゲ3個、クロトン1個)設置・土壌改良165㎡・その他植栽1068本。 阿佐区その他植栽は当初計画していた整備箇所に散水できない場所があり、植栽の場所と数を調整したため目標数を下回る数となった。					

市町村名	座間味村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 -	座間味村ホェールネットNEXT事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(6)-イ	
担当部課名	総務・福祉課	事業実施(予定)年度	平成25～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	高度情報通信ネットワーク社会に対応した行政サービスの提供		
					-10-(2)		
事業内容	観光地として観光客の安心と安全の確保と災害時におけるいち早い対応を構築するためIP網を駆使した防災無線の取付と、離島の離島である阿嘉・慶留間及び隣村の渡嘉敷村を結ぶ高速無線LAN設備を増強し、質の高い情報網の構築を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	80,000	23,273			
		(b)予算現額	84,841	30,691			
		(c)増減額(b-a)	4,841	7,418			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		84,841	30,691			
	B.執行済額		84,641	30,682			
	うち交付金充当額		67,712	24,546			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率(%) (B/A)		99.8%	100.0%			
予算の状況の説明		離島の強い季節風により左右される防災無線の聞こえの向上を期して、予定になかった防災柱(スピーカー)を2基設置するため、当初予算を7,418千円増額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	スピーカー増設及び戸別受信機の設置	目 標	(増設及び設置)	()	()	()	
		実 績	増設及び設置				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	25年度事業において防災無線の聞こえは格段に向上したが、複雑な地形や強い季節風の影響により、なお一層の改善が地域から求められ、スピーカー設置が効果的な地区2地点については防災柱(コンクリート柱にスピーカー、無線機、蓄電池などを設置するもの)を増設した。 また、25年度で構築した防災ネットワーク網を用い、高齢者も使いやすい屋内受信機と受信アンテナのセットを村内で34台設置したことで、不到達地域をほぼ解消した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	村内防災無線の一層の聞こえの向上	目 標	()	(聞こえの向上)	()	()	()
		実 績		聞こえの向上			
	観光客への防災情報サービス提供	目 標	()	(サービスの提供)	()	()	()
		実 績		サービスの提供			
	進捗状況説明	防災無線が各家庭で聞こえる率はほぼ百パーセントとなり、成果目標を達成した。観光客向けの防災情報サービス“ZAMAMI-SNS”は、現在は主に住民に利用され、防災無線の聞き直しや住民同士の情報交換に活用されている。これから夏場の観光トップシーズンを迎えるにあたって、観光客の利用を促し 防災無線の着実な受信 各国語での情報交換 位置情報システムを活用しての避難誘導の活用に向けて、村営船舶内などで広報を行う。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本村においては防災無線は災害情報だけでなく、船舶運航状況や生活情報など離島の日常生活に欠かせない情報受信メディアとなっている。そのため、戸別受信機(受信アンテナとセット)の設置にあたっては、高齢者宅や公共施設の立地状況に応じ、着実に受信するため、25年度構築の防災ネットワークのうち、Wi-Fiのアクセスポイントや増強された無線ブロードバンド網なども活用し、最適の電波環境を選択して整備することができた。屋内機器は高齢者にも使いやすく、「台風時など外の音が聞こえないときも安心」と、たいへん好評を得ている。さらに、集落外や海上にいる村民や観光客も、防災SNSを通じて放送された内容を確認することができるようになった。さらに、集落内に残っていた不到達地帯に防災柱を増設したことで、村民に喜ばれ離島の安心・安全につなげることができた。	防災SNSは住民には日常から活用してもらい、観光客には観光情報の入手手段として使ってもらおうことが、災害発生時の活用につながる。そのため、ふだんから便利に使ってもらおうためのコンテンツの一層の充実が求められ、引き続き改善を行っていく。
今後の取り組み方針		
25年度において構築したWi-Fi網は、携帯電話キャリアやインターネットなどの情報通信網が途絶した際の情報伝達基盤となることが期待され、防災SNSもこのWi-Fi網により災害時に威力を発揮し、離島観光地の住民・観光客の不安解消と減災に役立てることを目標としている。今後は、構築した仕組みをいざというときに役立てるための周知・訓練が重要となるため、住民・観光客を対象に 防災情報システムを活用しての防災訓練の実施 防災SNSの活用に向けて、内容の充実と利用促進に努めたい。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		30,682	30,682	24,546
				市町村負担金
				6,136
				交付対象外経費
				0
座間味村 30,682千円 委託費 30,682千円 NTTビジネスソリューションズ ㈱ 30,682千円 防災システム拡充事業委託費				
資金の流 れ、費 目・使 途の 点検・ 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○選定方法...当該事業者が整備、運用しているシステムを使用するため保守運用上、随意契約による事業者選定は妥当であると考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		○ 予算規模は適正であり、不用額もほとんどない
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○ 費目・使途は精算時点で検査を実施し、必要なものであった

市町村名	座間味村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 -	阿嘉地区観光道路整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 3 - (2) - ウ	
担当部課名	産業振興課		事業実施(予定)年度	平成26～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 - 1 - (1)	
事業内容	観光客の国際化や多様なニーズに対応するためハブが生息していない、国指定天然記念物ケラマジカが生息している地域特性を活用した昼夜問わず安心して魅力ある癒しの観光メニュー - 開発を目的とした山林観光道路を整備する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		(b)予算現額	6,941				
		(c)増減額(b-a)	6,941				
		(d)繰越額	0				
		A. 計(b+d)	-				
	B. 執行済額	6,941					
		うち交付金充当額	6,696				
		5,356					
	次年度繰越額	-					
	執行率(%) (B/A)	-					
96.5%							
予算の状況の説明	今年度は、設計委託業務で、不用額245円については、委託費の入札残である。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	観光関連事業者や、住民の意見を踏まえ地域のニーズに合った観光道路設備設計委託業務の実施	目 標	(委託業務完了)	()	()	()	
		実 績	委託業務完了				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	・事業者や住民の観光道路の勾配がきついという意見を踏まえ、設計時に階段や展望台(休憩場所)を設置した。 ・小動物が側溝に落ちても、逃げられるようにした。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	阿嘉地区観光道路の整備設計委託業務完了	目 標	()	(委託業務完了)	()	()	()
		実 績		委託業務完了			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	住民説明会を行い、住民と協議の上、整備設計を完成させた。 完成した設計図に基づき、H27年度工事を実施し、H28年4月の供用開始を目指す。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・観光客により、阿嘉島の自然を体験してもらうために、観光道路整備設計をするにあたり、住民説明会を2回開催し、周知を行った。 ・設計について、小動物が側溝に落ちて逃げられるように配慮した。 ・観光客の利用が多く考えられ、自然環境について利用者への周知が必要となる。	・道路工事を行う際、自然環境を守れるよう最大限の努力をするよう業者に説明を行う。
今後の取り組み方針		
・観光道路整備設計に基づき、H27年度より工事を行う。 ・今後、観光道路を利用する方へ注意事項等を作成し、事業者(民宿)等から協力してもらい観光客への周知をしてもらう。 ・ゴミ等の清掃について、事業者(民宿)等との協議を持ち、協力体制の構築を図る。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>6,696</td><td>6,696</td><td>5,356</td><td>1,340</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,696	6,696	5,356	1,340	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,696	6,696	5,356	1,340	0										
座間味村 6,696千円 委託費 6,696千円 (株)芝岩エンジニアリング 6,696千円 阿嘉地区観光道路整備事業に伴う委託業務														
資金の流 使途の流 点検 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・業者は、指名参加願いに提出された登録業者の中から選出し、指名競争入札を実施したため、妥当である。 ・不用額は、入札残であるため、適正であると判断した。 ・費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	座間味村							
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-	ダイバーズ・エッグ・プロジェクト			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章3-(2)-イ		
担当部課名	産業振興課		事業実施(予定)年度	平成26～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開 -1-(1)		
事業内容	ダイビング観光客誘客のため、閑散期に(10月～2月の間3カ月程度)トライアルプログラム実証調査事業(体験ダイビング)としてダイバーのタマゴを育てるため、調査を効果的に行うことにより、観光産業の活性化につなげる。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	18,000					
		(b)予算現額	18,000					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額	-					
		A.計(b+d)	18,000					
	B.執行済額		16,718					
	うち交付金充当額		13,374					
	次年度繰越額		-					
	執行率(%) (B/A)		92.9%					
予算の状況の説明		不用額1,282千円については、目標数500名に達しなかったことによる委託料の残である。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	体験ダイビング利用者への実証調査	目 標	(実証調査)	()	()	()	()	
		実 績	実証調査					
	メディア活用での情報発信、募集	目 標	(情報発信、募集)	()	()	()	()	
		実 績	実施					
	体験ダイビング利用者へのケア体制構築	目 標	(ケア体制の構築)	()	()	()	()	
		実 績	実施					
	達成状況説明	実証調査としてこのプロジェクトに参加した331名のアンケートを実施した。アンケート結果では満足度が高く、ダイビングへの「きっかけ」をつくることができた。また、体験ダイビング利用者へきめ細やかな指導をし、接客することで地元事業者の接客対応向上にも繋がった。 メディア等を活用しTVCM150本を実施し、郵便局やコンビニへのポスター掲載及び那覇市内飲食店でのチラシ配布を行った。						
	成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)			基準値(年度)	26年度	27年度	28年度
体験ダイビング(定員500名)を実施し、調査、実証検証、課題作成を行い、閑散期のダイビング観光客の増加、リピーターの増加、産業の活性化		目 標	()	(アンケート実施課題作成)	()	()	()	()
		実 績		331名回収分析課題抽出				
進捗状況説明		閑散期の1月より広報宣伝活動を実施したが予約数508名中331名の実施となり、目標数へは届かなかった。 アンケートについては、331名中有効回答261名となり、ダイビングへの興味があった回答が55.6%と高く、また、ダイビングをやったことがない回答が58. %と高かったことから、ダイバーの予備軍へダイビングの良さを知ってもらうきっかけとなった。 ダイビングを続けたい、また座間味村へ行きたいという回答が多かったことから、宿泊に繋げる事業内容を行うことで、Cカードの取得及び村内事業者の質の向上を行うことで、消費額をあげる仕組みづくりを行うことで活性化を図る。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	ダイビング年齢が高齢化していることや、ダイビング客が落ち込んでいることから、ダイバーのタマゴを育て今後のダイビング産業の活性化を図る目的にて、実証調査を行った。 事業期間が2ヵ月と短かったこともあり目標数の500名に達しなかったが、アンケート調査結果によると、ダイビングに興味があるとの回答が93%で、ダイビングをしなかった理由としては「きっかけ」がなかったとの回答が多く、関心層への開拓ができたと推測される。一方で冬季の実施であったことが参加数に影響してと思われる。 目標数を達成し、誘客に繋げるため事業期間を見直し、運営面(申込受付、受入体制面)での課題がある。	事業実施にあたって、公募を早めにおこない、十分な事業期間を設け、効果的な事業執行に努める。 また、より感動をあたえメモリアル感が残る施策や、宿泊へつなげ経済効果につながる仕組みを作り、情報発信の徹底に努めダイビング産業の活性化に取り組む必要がある。
今後の取り組み方針		
目標の500名を達成するため、早めの事業執行をおこない効果的な広報、募集をおこない、アンケート調査を踏まえメモリアル感のある企画内容(記念ダイブ)及びアンケート内容の充実を図り更なるダイビングの魅力を発信する。また、活性化を図るうえで、Cカードの取得へ繋げるため地元事業者および関係機関と開散期の事業展開を検討していく。 この事業を開散期に行うことで、村ダイビング事業者も初心者への親切丁寧な指導ができた、利用者にとって体験ダイビングをとおしてリーピーターとなってもらい、今後のダイビング産業活性化に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16,718</td><td>16,718</td><td>13,374</td><td>3,344</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	16,718	16,718	13,374	3,344	0
総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
16,718	16,718	13,374	3,344	0										
座間味村 16,718千円 → 委託料 16,718千円 → 株式会社 宣伝 16,718千円 委託業務・体験ダイビング 受入人数 331名 ・アンケート調査 ・プロモーション活動 (テレビCM 2週間、ラジオCM 2週間、フリーペーパー 1回、新聞広告 1回、ポスター 1000部、チラシ 5000部、) ・アンケート分析、実績報告等														
資金の 使途の 流れ、 検 査 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 委託事業者はプロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 不用額は当初予定の500名に達しなかった人数であり広報宣伝を含め適正な規模であった。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○ 費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											

市町村名	座間味村							
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	-1	座間味村鮮魚美食事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ		
担当部課名	産業振興課	事業実施 (予定)年度	平成24～29年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	農林水産業の振興 -1-(6)		
事業内容	地元で採れる新鮮な水産物の食材を観光客や宿泊施設へ提供と流通を図る。また、阿嘉島に直売所を開設し、離島の特色を生かした観光・産業振興を推進するとともに村ブランドの確立等に取り組み地産地消を推進する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	22,481	6,166	14,961			
		(b) 予算現額	22,481	6,166	14,961			
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0			
		(d) 繰越額	-	-	-			
		A . 計(b+d)	22,481	6,166	14,961			
	B . 執行済額		21,783	5,848	13,415			
	うち交付金充当額		17,426	4,678	10,732			
	次年度繰越額		-	-	-			
	執行率(%) (B/A)		96.9%	94.8%	89.7%			
予算の状況の説明		不用額1,546千円は人件費の実績減による補助金の残である。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H26活動目標(指標)			達成状況				
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	地産地消の推進と直売所の強化 加工食品の開発 ・海鮮ソーセージ、魚ナゲット、刺身盛り合わせ、魚天ぷら	目 標	(加工食品の開発)	()	()	()	()	
		実 績	刺身・魚天ぷら販売・ 丼物販売					
	備品の発注 対面ショーケース テーブル型恒温高湿庫 電子レジスター等	目 標	(対面ショーケース 1式 テーブル型恒温高湿庫 1式 電子レジスター 1台)	()	()	()	()	
		実 績	対面ショーケース 1式 テーブル型恒温高湿庫 1式 電子レジスター 1台					
達成状況説明	阿嘉島鮮魚捌き所の整備をし、対面ショーケース・テーブル型恒温高湿庫・電子レジスターの設置を行った。当初直売所が10月頃の完成を予定していたが、業者選考に時間が係り工期が遅れた。平成27年4月より直売所が稼働している。加工品の開発に関しては、観光客・住民のニーズを把握し、お昼時間に向け、予定していた海鮮ソーセージ等から変更して島の魚を利用した刺身や丼物を提供した。(例:カツオ丼・カジキフライ丼等)							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H26成果目標(指標)			基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (年度)
	・今まで、阿嘉島には無い加工食品直売所の施設整備と機能強化による観光環境の充実	目 標	()	(観光環境の充実)	()	()	()	()
		実 績		観光環境の充実				
	・安定的な生産と供給体制の確立、地産地消の推進	目 標	()	(精算と供給体制の 確立・地産地消の 推進)	()	()	()	()
		実 績		精算と供給体制の確立・地産地消の推進				
	進捗状況説明	今まで、阿嘉島には無い加工食品直売所の施設整備と機能強化により、住民、観光客、民宿事業所への安定的な生産と供給体制が確立できた。立地的にもよく、観光客が頻繁に通る場所にある為、特に外国の観光客の利用が増えている。また、民宿事業所からは地元の魚を利用できるという事もあり、好評である。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今までは座間味島の上に直売所があり、阿嘉・慶留間の住民、観光客、民宿事業者に新鮮な魚を提供することができなかったが、阿嘉島に直売所を設備し、新鮮な漁獲物を提供することができるようになった。また土日は休業としていたが、観光客の増加に伴い、土日も窓口を開け、観光客のニーズに答えることができた。	・今後さらに、需要が高まれば阿嘉、慶留間の漁業者の漁獲量のモチベーションが高まる。 ・漁業者の漁獲量の向上は、安定した商品の提供にも繋がる。 ・上記2点が循環すれば、本事業の目的である地産地消のシステムの構築に資する。 ・外国人が増加してきている為、販売所に外国語を標記し、訪れやすい販売所を目指す。
今後の取り組み方針 住民と漁業者のお互いの要望に応えられる環境を作る事で、漁業者の水産物(漁獲物)の向上により、安定した商品の提供ができる。 27年度も引き続き座間味・阿嘉直売所の連携強化をし、5年以内の自立を目標とした、水産物の安定生産供給体制を構築し、観光産業と融合した産業を創出し、地域の魅力向上を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>14,906</td><td>13,415</td><td>10,732</td><td>2,683</td><td>1,491</td></tr> </table> 座間味村 13,415千円 補助金 13,415千円 座間味村漁業協同組合 13,415千円 (直売所の強化) 販売加工・人件費・備品 購入費 座間味村漁業協同組合負担分 (交付対象外経費) 1,491千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	14,906	13,415	10,732	2,683	1,491
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
14,906	13,415	10,732	2,683	1,491										
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・事業目的を達成するにあたり、村内においては当法人しかなく妥当である。 ・予算規模は事業内容にあっており適正であった。 ・受益者負担については受益者の経営上、収益基盤が弱い ため妥当である。 ・事業の使途については実績報告、額の確定時においての 支出等の書類により確認しており、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	座間味村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	座間味村サンゴ(海の花)育成・植付事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 3 - (12) - イ	
担当部課名	総務・福祉課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産業の振興 - 1 - (6)	
事業内容	白化現象やオニヒトデの異常発生の影響により、失われたサンゴ礁海域の回復に向け、地元漁協職員及び海洋研究所とタイアップのもと、サンゴの種の養殖と育成及び海への植付に係る生育活動のノウハウを学び、人材支援活動事業費の補助を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	4,700	6,388	5,742		
		(b)予算現額	4,230	6,388	5,742		
		(c)増減額(b-a)	▲ 470	0	0		
		(d)繰越額	-	-	-		
	A. 計(b+d)		4,230	6,388	5,742		
	B. 執行済額		3,731	5,771	5,202		
	うち交付金充当額		2,686	4,616	4,161		
	次年度繰越額		-	-	-		
	執行率(%) (B/A)		88.2%	90.3%	90.6%		
予算の状況の説明		不用額540千円は人件費の実績減による補助金の残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・サンゴの採卵、人口基盤への付着 ・海上イクスでの育成管理 ・海洋への種苗の植付、管理	目 標	(人材採用、育成)	(採卵、付着)	(採卵・付着 育成・管理 植付・管理)	()	
		実 績	人材採用1名	採卵4回、付着1,000本	採卵3回、付着2,200本、 植付1回実施		
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	漁業協同組合職員を臨海研究所に派遣することによって専門的知識を習得することができ、今年度においては産卵シーズンに採卵を行い、人工基盤への付着作業を行った。また前々年度から前年度において海上イクスで育成してきた種苗を海洋へ植付けることができた。今年度の業務の流れを次年度へ向け確立していく為の展開ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度		目標値(年度)
	・サンゴが減少、少ない海域への植付2回 ・種苗の生産の拡大 2,000本	目 標	()	(1,000本)	(植付2回 種苗2,000本)	()	()
		実 績		200本	植付1回 種苗2,200本		
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	産卵シーズンの5月から6月にかけて採卵を行い種苗を人口基盤へ付着させ、海上イクスへ移動後、飼育管理を行い年度末に海底へ植付を行った。植付回数を目標2回としていたが、場所の選定、環境整備が整わず1回のみの実施となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	サンゴ礁海域の回復に向け、サンゴの種の養殖と育成及び海への植付に係る生育活動のノウハウを学び、人材を育てるため派遣人材の技術の習得と海域への植付を行った。 人材育成においては、臨海研究所より専門的な知識を学びサンゴの生態について理解が深まっている。 前年度は生産し植付できる種苗本数が200本、今年度は2,000本越と大幅増となっているが今後は植付作業も行っていくため、安定して今年度のように種苗の本数を多く確保する必要がある。 安定した本数を供給できる体制になれば、植付本数も増え、海域の回復に向け前進できる体制が整ってくる。 課題は、植付から保全までの仕組みをダイビング業者や、漁協職員、研究所職員で緻密に計画していく必要がある。	安定した種苗の本数の確保においては、事業開始初年度から臨海研究所の指導を仰ぎながら研修を行っているが今後も大量生産の技術改良を目標としながら環境の良質を図る。
今後の取り組み方針		
27年度以降においては採卵付着、植付管理の一連の作業の流れを安定させ、種苗の本数の増加に向け技術の向上を図る。 年数を増すごとに、種苗の本数を増やし、植付回数も増やし保全管理を図っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
座間味村 5,202千円 補助金 5,202千円 座間味村漁業協同組合 5,202千円 座間味村漁業協同組合負担分 (交付対象外経費)578千円 (人件費、研修委託費の補助)				
		総事業費	交付対象事業費	交付対象外経費
		5,780	5,202	578
		交付金充当額	市町村負担金	
		4,161	1,041	
資金の 使途の 流れ、 点検 評価、 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・事業目的を達成するにあたり、村内においては当法人しかなく妥当である。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は人件費、研究委託費等必要な費用であって妥当な金額である。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・受益者負担については受益者の経営上、収益基盤が弱いため妥当である。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目・使途については実績報告、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。	

市町村名	座間味村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 - 座間味村島ちゃび解消移動手段安定化対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第2章-3-(11)-ウ		
担当部課名	産業振興課		事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	離島における定住条件の整備 - 9	
事業内容	離島交通ネットワーク手段の確保として、船の欠航時やダイヤ変更時にチャーターヘリコプターを利用した場合、運賃の一部補助を行う。						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	2,000	5,985	8,700		
		(b)予算現額	4,000	8,700	8,700		
		(c)増減額(b-a)	2,000	2,715	0		
		(d)繰越額	-	-	-		
		A. 計(b+d)	4,000	8,700	8,700		
	B. 執行済額		3,660	6,060	5,460		
	うち交付金充当額		2,928	4,848	4,368		
	次年度繰越額		-	-	-		
	執行率（％）(B/A)		91.5%	69.7%	62.8%		
予算の状況の説明		不用額が3,240千円発生しているが台風の襲来や荒天の影響を受けるためフライト数が減少し不用額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	航路欠航等によるヘリコプターチャーターに対する支援	目 標	(支援)	()	()	()	
		実 績	支援				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	慶良間空港～那覇空港間のフライト数182回分の運賃一部補助を実施した(1フライト60,000円のうちその半額の30,000円を補助)。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	慶良間空港～那覇空港間フライト数:290回	目 標	()	(125フライト)	(195フライト)	(290フライト)	()
		実 績		122フライト	202フライト	182フライト	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	慶良間空港～那覇空港間のフライト数182回分の運賃一部補助を実施した。 台風や荒天時の航路欠航時における補助であるため天候の影響等により利用回数の増減が左右されるが、当該年度においては、26年1月に発生した墜落事故により6月まで運行を停止したことも影響した。 今後も天候の影響を受けることを考慮し目標値等を検討する必要がある。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	・台風や荒天時の航路欠航時における補助であるため天候の影響等を考慮しながら事業を実施しなければならないが、他市町村でも同様の事業を行っていることからアイラス社の機材が足りず、必ずしも需要を満たす状況にはない。 ・航路欠航時の補助の実施について利用者に対して周知をいかにして行うかを検討していく必要がある。 ・慶良間空港離発着であり、座間味島からの利用者にとっては、島間の船舶移動と港用者増のため慶良間空港～阿嘉島間の移動手段の検討が必要	・座間味村のホームページやSNS等を利用して、航路欠航時の運賃一部補助の周知をいかに効率的に行うか検討する必要がある ・慶良間空港～阿嘉島間は現状、民間タクシーの1事業者しかおらず移動手段の利便性の向上を検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
・座間味村観光協会等とも連携し、補助制度の効果的な周知方法はないのか検討を行い広報していく。 ・慶良間空港～阿嘉島間の利便性の向上の為、予約の集約化について観光協会等と検討を進める。 ・船舶の欠航情報に利用者がどこで接するか？から、村内からの利用者は宿泊施設であり、村外からの利用者は船舶事務所である。そのことから、村公式hpやネット配信サービスによる情報提供を周知する。また、宿泊施設等への当事業に関するポスターの掲示を促進する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
5,460	5,460	4,368	1,092	0

座間味村
5,460千円

補助金
5,460千円

アイラス航空株
式会社
5,460千円

船舶欠航時ヘリコプター
チャーター1フライトに対する
運賃の一部支援

資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○県内においてヘリコプターによる輸送業務を行う事業者は当事業者しかなく妥当である。 ○不用額が3,240円発生しているが機材の影響で運航を停止した経緯もあり、利用数の推移から予算規模は適正であると考え。 ○受益者負担は村の高速船の片道運賃となるよう設定されていることから妥当である。 ○事業の使途については実績報告、額の確定時においての支出等の書類により確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	座間味村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-	座間味村村内運航に係る対策事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-ア	
担当部課名	産業振興課		事業実施 (予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	交通・生活コストの低減	
事業内容	離島と離島を結ぶ海上交通手段として、小型船舶の資格を有する賃金職員2名を採用し、座間味島と阿嘉島間を定時運航、渡嘉敷村と座間味村の諸島間新規運航を実施し、離島交通の足の確保と観光振興を図る。						
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+ 「市町村負担」 ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	2,014	3,468	3,468		
		(b)予算現額	1,886	3,468	3,473		
		(c)増減額(b-a)	▲ 128	0	5		
		(d)前年度繰越額	-	-	-		
	A. 計(b+d)		1,886	3,468	3,473		
	B. 執行済額		1,886	3,444	3,410		
	うち交付金充当額		1,508	2,755	2,728		
	次年度繰越額		-	-	-		
	執行率（％）(B/A)		100.0%	99.3%	98.2%		
予算の状況の説明		当初予算より船の修繕等が発生したためそれに伴う人件費5千円増額補正を行った。 台風などの悪天候により、運休となったことに伴い、不用額が生じた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	渡嘉敷村及び阿嘉島へ定期船運行の実施	目 標	(定期船運行の実施)	()	()	()	
		実 績	定期船運行の実施				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成 状況 説明	台風や悪天候時の欠航があったために渡嘉敷村～座間味村間の目標回数は到達できなかったが、離島と離島を結ぶ海上交通手段として、小型船舶資格保有者を2名採用し、座間味島と阿嘉島間の定時運航、渡嘉敷村と座間味村の諸島間新規事業を実施し新たな離島交通の足を確保できた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	座間味～阿嘉 1日4便	目 標	()	(800回)	(1300回)	(1300回)	()
		実 績		841回	1403回	1418回	
	座間味～渡嘉敷 1日2便	目 標	()	(60回)	(590回)	(590回)	()
		実 績		32回	373回	468回	
	進 捗 状 況 説 明	台風や悪天候時の欠航があったために渡嘉敷～座間味村間の目標回数は達成できなかったが、離島と離島を結ぶ海上交通手段としての足の確保及び渡嘉敷村と座間味村の諸島間の新規運航を展開し、アクセスの充実により観光基盤の向上が図られた。 また、慶良間諸島が国立公園に指定されたことから、観光客の入域者数が増えたため運航回数が増えたと考えられる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本年度は通年を通して運航できるような環境を整備してきたが、悪天候などにより運航できない日もあり、その際の利用者への周知方法が課題である。また、昨年度より要望のあった、座間味村、渡嘉敷村の高速船の定期検査の為、運休となってる場合に両村とも住民が日帰りで沖縄本島へ行けるような運航ダイヤに変更した。 今後の事業展開として、通年運航はもとより、両村を日帰りで観光などができるような運航ダイヤなどを検証し、周遊観光の促進に向けて広報の強化や、渡嘉敷村との連携強化を図り、利用回数の向上に努める必要がある。	悪天候時の運行情報について現在、村内放送のみとなっているが、より効果的な周知方法について検討する必要がある。 本村の那覇～座間味間の船が欠航時の時に渡嘉敷経由で沖縄本島へ移動できるように陸上交通とのスムーズに連携を行い、関係機関(観光協会、商工会、ダイビング協会等)や住民のニーズにあったきめ細やかな運航をするために渡嘉敷村も含めた意見交換会が必要がある。 高速船やフェリー欠航した際、ヘリの利用が考えられることから関係機関との連絡体制の確立やその際の運行ダイヤの改善など更なる検討が必要である。 観光客の利用促進に向け広報の強化が必要である。
今後の取り組み方針		
悪天候時の運行情報について村ホームページ等への公開など効果的な周知を進めていく。 陸(バス)・海(高速船やフェリー)・空(ヘリ)のそれぞれの運航ダイヤを確認しスムーズな乗り継ぎができるよう環境を整備するため住民や関係機関、隣村などとの調整を行いながら、運行ダイヤの改善の必要性が生じた場合、速やかに対処し運航強化をすることで、事業の効果を高める。 渡嘉敷村との連携を強化し、住民の利便性向上や両村の周遊観光を促進するため、渡嘉敷村との意見交換会を行う。 住民や観光客関係機関からの要望を確認し、利用促進に向けた運行ダイヤの改善に努める。 利用促進のため村ホームページやSNS等を積極的に活用し広報の強化をする。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
座間味村 3,410千円 報酬 3,410千円 臨時職員2名 3,410千円 船舶船長の人件費 交付対象外経費62千円については、欠航などの運休や3月末日まで運航をしているが、3月27日までの実績をもとに交付対象事業費として計上														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>3,472</td><td>3,410</td><td>2,728</td><td>682</td><td>62</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,472	3,410	2,728	682	62
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,472	3,410	2,728	682	62										
資金の流 れ、費 用、 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	支出先については、村臨時職員として募集し、面接等を行い職員(船長)を採用しており、妥当である。 村の資金規定により積算を行っており、予算規模は妥当である。 慶良間内の村民、観光客の足を確保するために要綱を定め事業を実施しているため目的に即していると考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	座間味村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-	座間味村自動車航送運賃低減化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)ア	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交通・生活コストの低減	
事業内容	離島住民の利便性向上を確保するため、高額である本島 座間味村間のフェリー車両航送に係る運賃補助を実施し、高い交通コストの改善を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	535	1,870			
		(b)予算現額	1,456	3,085			
		(c)増減額(b-a)	921	1,215			
		(d)前年度繰越額	-	-			
	A. 計(b+d)		1,456	3,085			
	B. 執行済額		1,456	3,083			
	うち交付金充当額		1,164	2,466			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.9%			
予算の状況の説明		当初263台程度の補助を予定していたが、4～10月における補助申請予想を上回っていることから、予定台数を369台へと変更するため、補助金1,212千円増額補正を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	自動車航送運賃の低減支援	目 標	(支援の実施)	(支援の実施)	()	()	
		実 績	支援の実施	支援の実施			
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	目標台数を上回る385台の自動車航送運賃の低減支援を行った。 4月31台(284,140円)5月46台(433,720円)6月35台(307,160円)7月23台(217,880円)8月22台(180,460円)9月25台(146,290円)10月28台(211,810円)11月36台(261,770円)12月49台(406,370円)1月28台(187,960円)2月33台(201,770円)3月29台(243,270円)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(25年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	自動車航送運賃の低減:年間約369台	目 標	(60台)	(60)	(369)	()	()
		実 績		223	385		
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	目標台数を上回る385台の自動車航送運賃の低減支援を行った。 沖縄本島での移動手段の確保、または車検整備における自動車航送運賃低減化を図ることで、離島特有の経済的負担の軽減が図られた。 また、平成25年度7月からの実施で、平成26年度に関しては通年実施しているのと、広報などの周知活動により前年度より大幅に上回ることができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	沖縄本島での交通手段の確保、車検整備などの経済的負担の軽減などを図ることができたが、車検整備における自動車航送については、申請者の名義のみとなっているので、法人名義等を今後、どうするかが問題となっている。 また、車検整備などが2か月前から受検できるようになったことから、現在、1か月前からの申請なので同様に変更するか検討。	今後の経済的負担を軽減させるのを事業者まで拡大するのか検討していく必要がある。 要綱などの改正を検討し、車検整備などを早めに受けれるように住民の利便性を向上していく必要がある。
今後の取り組み方針		
課題に上がった自動車運賃低減補助を事業者まで拡大や車検整備などの沖縄本島への輸送する申請期間が現在1か月前からとなってることから、2か月前から申請ができるよう、要綱の改正を検討をしていく必要がある。		

資金の流れ						
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
		3,083	3,083	2,466	617	0
座間味村 3,083千円 補助、負担金及び 交付金 3,083千円 航路事業者 (座間味村) 3,083千円 フェリー車両航送に係る 運賃の一部支援						
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目			評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。			支出先については、航路事業者が1事業者しかいないため妥当である。 予算規模は増額があったものの概ね妥当である。 座間味村自動車航送運賃低減化事業については実施要綱に定めた目的、額を執行しているので妥当だと考えられる。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。				
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。				
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

市町村名	座間味村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 -	座間味村救急対応車両整備事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-2-(3)-(ウ)		
担当部課名	総務・福祉課	事業実施 (予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	県民ニーズに即した保健医療サービスの推進		
					-4		
事業内容	安心安全な村、観光地づくりを推進するため、急患が発生した際の対応のため救急搬送車両を購入する。						
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	5,130				
		(b)予算現額	5,492				
		(c)増減額(b-a)	362				
		(d)繰越額	-				
		A. 計(b+d)	5,492				
	B. 執行済額		5,492				
	うち交付金充当額		4,393				
	次年度繰越額		-				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初見込んだ額より仕様書作成段階で必要備品増により、362千円を流用した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	救急対応車両購入	目 標	(実施)	()	()	()	
		実 績	1台				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	道幅の狭い座間味村の実情に合った救急搬送車両を3月に購入した。これにより急患発生時の対応が可能になり安心安全な村、観光地づくりの体制が整った。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (年度)
	急患発生時の患者の搬送	目 標	()	(患者の搬送)	()	()	()
		実 績		患者の搬送			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	急患対応車両の購入により、急患発生現場から診療所への搬送や、ドクターヘリ要請時のヘリポートへの搬送をスムーズに行える体制ができた、4月より実際に運用を開始している。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本村においては、観光客が多く訪れる観光地であり安心安全な村づくりの推進の為、救急搬送車両の整備が必要であった。	急患発生時の搬送対応や処置等の緊急出動の際の体制の整備が必要である。
	国立公園となり観光客の入域者数も増え今後更に急患発生数も搬送数も増加すると考えられるため取扱い担当者の体制の整備が課題である。	急患搬送対応する職員や消防団員の意識も高まっており、対応の充実強化を図る必要がある。
	心肺停止の症例も何件か発生し、搬送車両内で処置も行う場合もあることから心肺蘇生法の講習会を望む声もあった。	
今後の取り組み方針		
今回、救急搬送車両を整備したことにより、搬送体制が整ったがより対応の充実強化のために講師を招き心肺蘇生法等の講習を行うことを検討する。 これまで村役場にて急患の連絡を受けていたが、平成27年10月末頃から嘉手納町の共同指令センターにて119番で受ける体制に移行することから10月頃の運用に向けて訓練等を行うことを検討する必要がある。		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,492	5,492	4,393	1,099	0

座間味村
5,492千円

→

備品購入費
5,492千円

→

琉球日産自動車株式会社
5,492千円

〔座間味村救急対応車両1台〕

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・座間味村特殊仕様に限定されているため当該事業者しか受注できないため自治法施行令第167条の2に基づく随意契約としており妥当だと考える。 ・予算規模は仕様書作成の段階で備品増によるもので事業内容の目的達成のための増額であり適正であるとする。 ・費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	座間味村							
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-	座間味村外来植物討伐事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-ア		
担当部課名	産業振興課		事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生物多様性の保全		
事業内容	自然環境保全と観光地である本村の景観保持のため、村内至るところで野生化した外来植物「モクマオウ木、ギンネム木」繁殖の抑制を図るため討伐事業を実施する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
		(a)当初予算額	18,900	21,214	28,620			
		(b)予算現額	18,900	36,183	28,620			
		(c)増減額(b-a)	0	14,969	0			
		(d)繰越額	-	-	-			
	A.計(b+d)	18,900	36,183	28,620				
		B.執行済額		18,867	35,962	28,134		
		うち交付金充当額		15,093	28,769	22,507		
		次年度繰越額		-	-	-		
		執行率(%) (B/A)		99.8%	99.4%	98.3%		
予算の状況の説明		予算残額486千円については委託料の入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	外来植物の討伐(村内一円)	目 標	(討伐の実施)	()	()	()		
		実 績	実施					
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
達成状況説明	事業開始年度から3年目を迎え、主要幹線道路沿いにおいてはモクマオウ等の大まかな伐倒ができています。今後海岸付近に点在する倒木を今後どのようにするか検討し必要に応じた対策を考慮する。倒木の再生処理等については輸送費等の費用がかかることで保留中である。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
	外来植物の討伐(村内一円) 討伐本数年間600本(モクマオウ木・ギンネム木)	目 標	()	(500本)	(600本)	(600本)	()	
		実 績		550本	710本	517本		
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進捗状況説明	・モクマオウなど外来植物類の自生数(大木)は減少したと思われる。多少の減少で周辺における自然環境保全への効果は達成されていると思われる。(しかし、自生する数が多く実際の倒木には時間が必要であり今後の事業のありかたについても検討の必要性がある。) ・事業の活用で主要幹線道路沿い・観光施設周辺において景観への配慮は十分に行き届いており、大きな効果がある。しかし、目標等の未達成についてはH26年度において山間部の道路周辺沿に点在する樹木が大半で実際の作業には安全確保を行いながら行うため作業能率が悪く倒木の本数に至っては若干目標より下回った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	自然環境保全と観光地である本村の景観保持のため、村内至るところで野生化した外来種「モクマオウ木・ギンネム木」繁殖の抑制を図るためH26年度討伐事業を行った。 自生する外来種樹木(モクマオウ・ギンネム)が多く実際の倒木には時間が必要であり今後の事業のありかた(継続の必要性)も検討の必要性がある。 今後海岸付近に点在する外来種樹木を今後どのように駆除を行うか検討し必要に応じた対策を検討する。 倒木の再生処理等については輸送費等の費用がかかることであるため保留中である。	・切り倒している樹木等の有効活用(処理)について今後どのようにするか検討が必要である。 ・現在試験的に行っている薬剤使用についてはその効果を検証中であることから取り組みを継続し効果的な利用を図る。(切り倒す必要ない検証実験も検討)
今後の取り組み方針		
モクマオウなど外来種植物の直接伐採による減少への効果があらわれているが、薬剤使用に関する実験取り組みへの対応も強化する。 H27年度までは薬剤使用を兼ねた取り組みがあるためH26年度同様事業の展開に取組む。 作業困難な場所等における外来種樹木等が大半残っているためH27年度以降事業継続の必要性が問われ、事業等の縮小を図るかも検討する。		

資金の流れ						
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
		28,134	28,134	22,507	5,627	0
座間味村 28,134 千円 ⇒ 委託料 28,134 千円 ⇒ (有)中村建設 12,042千円 (阿嘉・慶留間地区) (有)岸本組 16,092千円 (座間味・阿佐・阿真地区) 外来植物駆除にかかる委託業務 外来植物駆除にかかる委託業務						
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目			評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。			業者等は指名競争入札により選定しており妥当である。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。			予算規模は作業規模にみあった範囲内で設定しており妥当である。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。				
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。	

市町村名	座間味村							
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-	座間味村環境衛生処理事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-イ			
担当部課名	総務・福祉課		事業実施(予定)年度	平成26～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	適正処理の推進		
						-10-(1)		
事業内容	本村では、可燃ごみと生ごみを別々に分けて収集しており、生ごみについては堆肥化を図り循環型社会の形成を図ってきました。しかし処理中に発生する臭気やそ族昆虫の発生により衛生面の問題が指摘され、併せて、クリーンセンターが遊泳ビーチや道路と隣接していることから観光客へ与えるマイナスイメージは避けられず、また、可燃ゴミとして処理した場合処理コストが高くなり、環境へ与える負荷も大きくなるため、これらを解決するため処理機導入を図る必要がある。							
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他（ ）							
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	39,294					
		(b)予算現額	26,334					
		(c)増減額(b-a)	▲ 12,960					
		(d)繰越額	-					
		A. 計(b+d)	26,334					
	B. 執行済額		17,334					
	うち交付金充当額		13,867					
	次年度繰越額		-					
	執行率（％）(B/A)		65.8%					
予算の状況の説明		当初、9,000千円の建屋の建築を予定していたが、建屋設計書の完成が遅れ工期までに建屋が完成しないと判断したため不用額となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度		
	生ゴミ処理機の設置、稼働 平成27年1月末までに設置 平成27年2月～3月稼働	目 標	生ゴミ処理機設置 (1月末までに設置、 2月～3月稼働)	()	()	()	()	
		実 績	生ゴミ処理機設置 3月設置、 3月稼働					
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
達成状況説明	阿嘉島クリーンセンター内に業務用生ゴミ処理機の設置を行った。 平成27年3月に設置及び稼働となり、正常に生ごみの堆肥化ができた。 建屋の建築完成後に生ゴミ処理機の設置を検討していたが、設計書の完成が遅れ建屋の建築を実施しなかったことにより生ゴミ処理機の設置が目標より遅れた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
	阿嘉島の生ゴミ処理体制の確立	目 標	()	(生ゴミ処理体制の確立)	()	()	()	
		実 績		生ゴミ処理体制の確立				
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進捗状況説明	生ゴミ処理機を設置し、生ゴミ処理体制をしたことでそ族昆虫等の発生を抑えられた。また、近くのビーチまで悪臭が臭わなくなったことで、観光客へ与えるマイナスイメージを軽減することができた。 次年度は、座間味島へ生ゴミ処理機を設置し、そ族昆虫等の発生を抑え、生ゴミ処理体制の確立に努める。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本事業は、阿嘉リ-ンセンターが観光地でもある北浜ビーチに隣接しており、生ごみから発生する悪臭などが観光客のマイナスイメージにつながることから、生ごみ処理機を設置し悪臭等の抑制に努めることを目的としている。 今回の生ごみ処理機の導入により、生ごみの悪臭の抑制につながったが処理により発生する堆肥の活用について検討する必要がある。 また、座間味島でも同様の整備が必要である。 今回、建屋は着手が遅れ間に合わず、不用額となった。	生ごみ処理機にて生成された堆肥を農業委員会を通じて周知を行い、農業従事者にどのような形で配布するのか検討する必要がある。 また、農業従事者だけでなく一般家庭にも広く公募し、リサイクルできる体制を構築する。 建屋の早期完成に向けて事業の早期着手に努める必要がある。
今後の取り組み方針		
農業従事者には、農業委員会にて詳細を説明し肥料として有効活用してもらう。 また一般家庭には、広報等に掲載し広く周知し生ごみ処理をし堆肥化をするサイクルを構築できるように取り組む。 生ごみ処理機の導入に遅れが生じないよう建屋の早期完成に向け事業の早期着手に努める。 H27年度は、座間味島へ生ごみ処理機を導入し、座間味島の生ごみ処理体制の確立に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
17,334	17,334	13,867	3,467	0
座間味村 17,334千円 工事請負費 17,334千円 (株)光エンジニア 17,334千円 生ごみ処理機設置工事				
資金の流 れ、費 用、使 途の 点検 ・評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・ 支出先選定はプロポーザルにて業者選定を行っており、随意契約で事業実施しているので妥当であると考えられる。 ・ 事業着手が遅れ建屋の建築が出来なかったことにより12,960千円の不用額が発生したため予算規模は適正ではなかった。 ・ 費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。	
	×	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	座間味村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	座間味村沖縄戸籍電算化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(6)-イ	
担当部課名	総務・福祉課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	高度情報通信ネットワーク社会に対応した行政サービスの提供		
事業内容	米軍施政権下で県独自の戸籍関係書類(仮戸籍、福岡戸籍)において、現在保管の老朽化した紙ベースから電子データ化を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	10,048				
		(b)予算現額	9,703				
		(c)増減額(b-a)	▲ 345				
		(d)繰越額	-				
		A. 計(b+d)	9,703				
	B. 執行済額		9,703				
	うち交付金充当額		7,762				
	次年度繰越額		-				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		不用額が345千円発生しているが、委託費残によるものである。また計画していた事業内容はすべて実施終了した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度				
	・仮戸籍電算化	目 標	(5000枚)	()			()
		実 績	4932枚				
	・福岡戸籍電算化	目 標	(1,500枚)	()	()		()
		実 績	1097枚				
達成状況説明	・本村は戸籍事務の電算化が整備されていないため、沖縄関係戸籍は紙媒体で保存されており劣化が著しい。 ・戸籍電算化作業を進めていく中で戸籍の重複等が多く見受けられたため、目標を下回る実績となった。 ・沖縄関係戸籍に係る住民サービスを確保するため、紙媒体で保存されている沖縄関係戸籍6,029件を電子化した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	沖縄関係戸籍の電算化率100%、情報資産の劣化、滅失防止	目 標	()	(100%)	()	()	()
		実 績		100%			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・電算化が必要な6,029件の戸籍全ての電算化を完了し目標を達成した。 ・電算化により、劣化滅失の防止が図られた。 ・平成27年度からシステム稼働し、現行システムとの連動した、沖縄関係戸籍を全て電子化したことにより、証明発行に係る時間が大幅に短縮されて、窓口対応のスピード化に繋がった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・米軍政権下で県独自の戸籍関係書類(仮戸籍、福岡戸籍)において、現在保管中の戸籍の劣化が進み、破れて文字の読めない戸籍が多々あり、電算化を行う必要性があった。 ・沖縄関係戸籍全件の電算化を実施することができ保存性を高め、速やかな情報提供、村民へのサービス向上に寄与できるようシステム等の操作技術を高める必要があると考える。	・職員のシステム操作技術の向上のため定期的なシステムの講習や勉強会を行う必要があるか検討する必要がある。
・沖縄関係戸籍を電子化することにより、保存性、証明書等の発行も検索ができるため、スムーズに対応できることから対応する職員のシステム操作技術の向上を図る研修等を行い、住民へ提供するサービスの質の向上に努める。		

座間味村
9,703千円

委託料
9,703千円

株式会社オーシーシ
9,703千円

座間味村沖縄関係戸籍電算化事業に係る委託業務

1. 原簿の解体及びナンバーリング

2. 原簿のスキャン作業

3. データーの見出し作成

4. データのシステムへの取り込み

5. データ検査

6. データ納品

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,703	9,703	7,762	1,941	0

資金の流れ、費目、使途の点検評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○今回はすでに村で運用している戸籍システムの追加整備であり、事業の性質及び目的が競争入札にはなじまない為、随意契約による委託業者の選定は妥当であったと考えている。 ○予算規模については5%以内であり適正であった。 ○費目、使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	